

絵本の紹介

以上児 季節のおすすめ絵本

【にじぐみ】

「ゆうれいとすいか」 さく：くろだ かおる

今の私たちと同じ気持ち「あー、あつい あつい。あつくて たまらん。これをいどで ひやして よる たべよう。」とすいかを冷やすところから始まるこの絵本。どうやら幽霊も同じ気持ちのようで、せっかく冷やしたすいかを食べてしまいました。その代わりに言うことを聞いてもらおうと蚊を退治してもらうことに。その方法がとてもユニークで子ども達が大好きな場面です。またやはりすいかが食べたいというと、人間の世界のすいかではないすいかが登場します！！絵本の世界ならではの面白さがふんだんに詰まったこの絵本、ぜひ手に取ってみてください。



【ほしぐみ】

「すいかのたね」 さく・え さとうわきこ

夏と言えばすいか！ねこ、うさぎ、いぬ、きつねそれぞれがすいかのたねをまく姿を見ていて、なにかわからず「つまらない黒いタネだ」と埋めていくことにたねが腹を立てます。そして怒りをばばあちゃんにぶつけると「それならいい加減に芽を出しておおきなれ！」と怒られたたね。するとたねは突然芽を出し、つるもぐんぐん伸びて大きなすいかが出来上がり、最後は皆で美味しくすいかを食べたという話です。芽が出る様子やつるがのびる様子、すいかを切って食べる様子が物語と共によく描かれていて、想像力もふくらみわくわくします。絵本を見た後にお子さんと一緒にすいかを食べても良いかもしれませんね！



【そらぐみ】

「おばけのきもだめし」 さく：内田 麟太郎 え：山本 孝

遊びのなかでお化けや怖い話をしている子どもたちがいたので、朝の集まりで読んだ1冊です。お化けが苦手という子もいるので、絵本のブックカバーに“おばけもおばけがこわいんです”という言葉が書いてあることを伝えると、少し緊張が解けた様子でした。閻魔大王からのご褒美を目指して進んでいきますが、大きな狸、ガマガエル、山姥が登場し、皆を襲ってきます。はたして無事にゴールできるのでしょうか。ろくろ首と一つ目小僧にも注目です。顔を背けながらも、つい気になって絵本に目が向いてしまうお話です。ぜひ読んでみてください。

